

第三国研修事前調査団報告書

—フィリピン，急性上気道感染及び下痢性疾患の
検査室診断におけるワークショップ—

昭和61年11月

国際協力事業団
研修事業部

研 管

J R

86-40

JICA LIBRARY



1046143E2J

は じ め に

第三国研修とは、社会的、文化的、言語的に共通の基盤をもつ同一の開発途上地域に研修実施団を派遣し、そこに当該地域内の途上国から研修員を受入れて、より現地事情に適合した適正技術、知識の移転を図り、これにより開発途上国間技術協力（TCDC）の推進に寄与し、将来的には実施国が独自に研修員受入事業を実施できるよう支援・協力することを目的としている。

フィリピンにおける第三国研修の実施はフィリピン大学における道路交通工学コースがある。

フィリピン政府は、同国内に蔓延する感染症のうちコントロール可能な疾患の予防に対する研修を熱帯医学研究所を拠点に実施しており、我国医療協力のひとつのモデルプロジェクトとして地道な努力を積み重ねて来た。

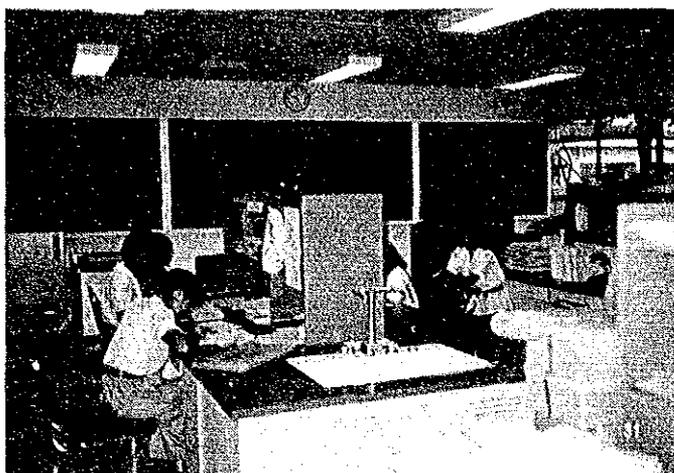
今般熱帯医学研究所を中心に感染症、特に急性上気道感染及び下痢性疾患の検査室診断技術、調査研究能力の普及、向上を目的とする第三国研修の実施可能性につき、先方関係機関と協議せしめるべく、本調査団を昭和61年9月2日より9月9日まで現地へ派遣した。本報告書は、この調査結果、協議等の概要をとりまとめたものである。

本件調査の実施に際し、御協力いただいたフィリピン日本国大使館、同JICA事務所、外務省、厚生省、文部省に対し深甚な謝意を表する次第である。

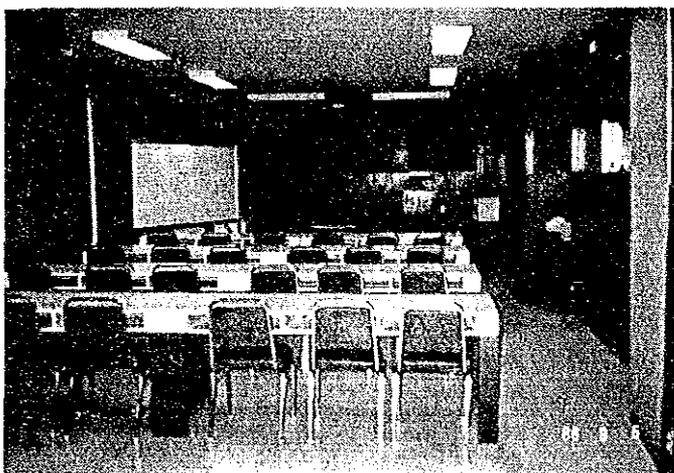
国際協力事業団

研修事業部長

国際協力事業団		
受入 月日	'87. 1. 22	118
登録 No.	15843	93.8
		TAD



RITMの Students' Laboratory
本コースの実習室（16名収容）となる。



RITMの Conference Room



RITMの食堂
研修員用に特別料理の調理可能とのことであった。

目 次

はじめに

関係写真

1. 事前調査団の派遣	1
1.1 派遣の経緯と目的	1
1.2 調査団の構成	1
1.3 調査日程	1
1.4 主要面談者	3
2. 周辺国のニーズ	4
3. 第三国研修基本計画	5
3.1 コース名	5
3.2 研修機関	5
3.3 コース実施の意義	5
3.4 到達目標	5
3.5 時間及び期間	6
3.6 研修計画	6
3.7 割当国	8
3.8 定員	8
3.9 応募資格	8
4. 研修実施体制	9
4.1 RITMの組織及び事業概要	9
4.2 RITMの関連組織及び支援体制	11
4.3 RITMの研修能力	13
4.4 研修運営管理能力	13
4.5 研修施設	13
4.6 第三国研修実行予算	15
5. 我国の他の経済協力との関係	16
6. 当該分野に対する他の先進国の協力概要	16

7. 第三国研修実施の妥当性	16
8. 日本側の協力	17
8.1 経費分担	17
8.2 派遣専門家	17
8.3 C/P受入れ	17
9. 協議内容	18
9.1 協議経過	18
9.2 協議事項	18
9.3 留意事項	19
別 添	
1. Note of Understanding (ANNEX I~V)	21
2. R I T M組織図及び所員構成	50
3. 国内・外研修プログラム	55
4. Social Welfare and Development Center	62

1. 事前調査団の派遣

1.1 派遣の経緯と目的

我国の無償資金協力及び技術協力により、昭和55年10月からフィリピン熱帯医学研究所プロジェクトが開始された。同プロジェクトでは、熱帯医学研究所（Research Institute for Tropical Medicine, 以下RITM）における熱帯病研究の水準向上と、これに従事するマンパワーを育成し、フィリピンを始めとする諸熱帯地方における主要熱帯病制圧に貢献することを目的とし、下記の内容の技術協力を実施している。

- 1) DPT（ジフテリア、破傷風、百日ぜき）ワクチンの研究・疫学調査
- 2) 下痢性疾患の研究（細菌学的分析、宿主環境要因）
- 3) 急性呼吸器疾患のウイルス学的研究

ロ. 臨床部門の技術向上

同プロジェクトは、当初の協力期間（5ケ年）を終了し、現在延長期間（昭和63年3月31日まで）に入っている。同プロジェクトの進捗に伴ない、その成果を周辺諸国に伝播せしめるよう第三国研修の実施が、1984年から日比両国関係者の間で検討され始め、今般昭和61年8月21日付在日本大使発外務公信第000987号により正式にフィリピン国政府より要請がなされた。

本調査団は、この要請を受け、RITMにおける第三国研修の実施可能性を調査し、第三国研修の実施基本方針及び研修計画をフィリピン国関係者と協議することを目的に派遣された。

1.2 調査団構成

団長	総括	田口定則	JICA九州支部長
団員	研修計画	大橋誠	都立衛生研究所微生物部長
団員	業務調整	鍋屋史朗	JICA研修事業部研修二課

1.3 調査日程

日順	月日	曜日	行程	業務
1	9.2	火	シンガポール → マニラ 東京 → マニラ 16:30~18:00	田口団長及鍋屋団員はシンガポール第三国研修（空難救助）評価調査終了後移動 大橋団員 JICAフィリピン事務所、大使館にて調査打合せ

日順	月 日	曜日	行 程	業 務
2	9.3	水	09:00~15:30 保健省副大臣、外務省ア セアンパシフィック事務 局、NEDA渉外局表敬 16:30~18:00 JICAフィリピン事務 所にて打合せ 20:00~21:00 調査団内打合せ	調査打合せ、「比」側の第三国研修への取 組みについて調査 研修内容打合せ PITMからの研修(案)の検討
3	9.4	木	09:30~16:30 RITMにて研修(案) の協議 17:30~18:30 JICA事務所へ報告	タイトル、コース実施の必要性、目的、研 修分野、合同評価の実施について協議 協議事項の報告及び打合せ
4	9.5	金	10:30~16:00 RITMにて研修(案) の協議 16:30~18:00 JICA事務所へ報告	急性呼吸器疾患(ARI)及び下痢性疾患 (DD)のカリキュラム割当国、定員、日 本人専門家の派遣人数について協議 協議事項の報告及び打合せ
5	9.6	土		協議事項まとめ
6	9.7	日		休 日
7	9.8	月	13:30~16:00 Technical Coordinat- ing Committee にて Minutes の検討 18:30~	Minutes of Meeting について協議 Minutes of Meeting に RITM Tupasi 所長及田口団長が署名
8	9.9	火	09:00~ 宿泊施設見学 シンガポール → ←(～大阪～)福岡 シンガポール → 東京	田口団長 大橋及鍋屋団員

1.4 主要面談者

「比」外務省アセアンパシフィック事務局

Ms. Basilio Executive Director (局長)

Mr. Aragon Counsellor

「比」保健省

Dr. Antonio N. Acosta Deputy Minister (次官)

NEDA

Mr. Calianta Social Service Staff (次長)

Mr. Fericiano External Division

熱帯医学研究所 (RITM)

Dr. Thelma E. Tupasi Director

Dr. Ma. Margarita M. Galon Asst. Director

Dr. Mediadora C. Saniel Chief, Science Research Specialist,
Research & Training Div.

Dr. Nelia P. Salazar Sr. Sci. Res. Spec. Dept. of Parasitic
Diseases & Medical Entomology

RITMプロジェクト派遣専門家

金子 義 徳 チームリーダー

一ノ瀬 純 業務調整員

JICAフィリピン事務所

宮本 守 也 所 長

岡崎 有 二 所 員

2. 周辺国のニーズ

感染症の検査室診断技術および研究のレベルを通覧すると、ASEAN諸国では、シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシアにおいては、フィリピンのレベルを凌駕する機能が存在する。例えば、シンガポールの Department of Pathology、タイの Department of Medical Sciences（これに加えて National Institute of Health の設立が JICA の協力支援により進行中）、マレーシアの Institute for Medical Research、インドネシアの Bio Medical Research Center および Bio Farma などの国立機関、および国立大学などを挙げる事が出来る。

従って、これらの国においてはこの種の国際的研修を必要としないとも考えられる。この他にも参加の呼びかけが予定されるその他の国の中には、中国、韓国などフィリピンに勝るであろう水準を有する国もある。又、バングラディッシュの ICDDR, B (International Center for Diarrheal Disease Research, Bangladesh) および WHO の各種テーマ別研修、SEAMEO-TROP-MED なる国際機構の研修など、本コースと競合が想定されるものも多い。

しかし、これらの国際的研修に参加できるものの数は各国とも限られており、それらに加えて JICA 第三国研修が開催されても、競合というよりは、むしろ相補的となりうるものと考えられる。また、自国に或る程度以上の水準があっても、この種の国際的な研修に参加出来れば、相互刺激という点で有益であり、隣接国からの参加は充分期待される。

尚、RITM が臨床部門を有することは、上記の諸国の研究機関と比較して、実効を挙げうる一つの要素となりうるので、G.I. において強調されてしかるべきである。

近年の感染症伝播の国際化傾向を照覧すると、その対策には情報交換をはじめとする国際協力が強調される所であり、その意識の上に立てば、隣接諸国における参加意欲も充分期待できる。

特に、従来伝染病問題が比較的平穏であった西太平洋諸国では、コレラなどの伝染病が東南アジアから侵入することを恐れており、対策の樹立に腐心する所であるので、これらの国では熱帯病に関する関心が高い筈であり、研修に参加する意欲は充分期待される。

フィリピンには WHO の西太平洋地域事務所があり、国際会議あるいはこの種の国際研修でこの国をおとずれる者が多いことも有利な点である。また、本研修が日本の協力によって実施されることから、高度の技術的な水準が期待されるであろうことも参加国の意識にのぼるであろう。

3. 第三国研修基本計画

本基本計画は、RITMより提示されたプロポーザルをもとに、調査団及びRITM間で協議し、Note of Understanding（別添-1）にとりまとめたものである。

3.1 コース名

和文：急性上気道感染及び下痢性疾患の検査室診断におけるワークショップ

英文：Workshop on the Laboratory Diagnosis and Research Techniques in Acute Respiratory Infections (ARI) and Diarrheal Diseases (DD)

3.2 研修機関

熱帯医学研究所

Research Institute for Tropical Medicine : RITM

Alabang, Muntinlupa, Metro Manila

3.3 コース実施の意義

東南アジアにおける開発途上国の保健問題のうち、最も対策の急がれるのは乳幼児における急性上気道感染と下痢性疾患による高い罹患率と死亡率である。その対策の基礎となるのは、それぞれの国におけるこれら疾患の疫学像を知ることとこれに影響を及ぼす各種の要因の分析であるが、それには検査室技術の整備と普及が不可欠と言える。従って、これら疾患を対象として、検査技術、調査研修機能の向上をめざす国際的な研修を実施する意義は大きい。しかも、このような保健問題の向上には、各国の自助精神の向揚と、開発途上国間相互の協力（TCDC : Technical Cooperation among Developing Countries）が重視されねばならないので、その意味においても、感染症問題の今なお深刻なフィリピンにおいて本事業が実施されることは大変有意義である。主催国自身に対しては勿論、同様の問題をかかえる近隣諸国に与えるであろうインパクトが充分期待されるところである。

3.4 到達目標

感染症、特に急性上気道感染および下痢性疾患の検査室診断技術、調査研究能力の普及・向上を目標とする。具体的には、参加者が自らの手で、(1)主要原因微生物（細菌、ウイルス、寄生虫を含む）の分離同定、(2)分離菌株の血清型別など疫学調査に応用すべき性状検査、(3)最新技術による病原微生物の抗原の直接迅速検出、(4)分離菌株の薬剤感受性検査などを実施出来るまでの技術研修を実施する。これらに加え、下痢症関係では、食品からの病原菌の検出、飲料

水の細菌学的安全性検査の手技の研修が含まれる。

なお、これらの技術を上記疾患の防疫対策上有効に生かすための識見の向上を目ざすことは言うまでもない。また、受講者が研修後これらの技術・識見を国内で伝達しうるような水準にまで至ることを目標とする。

3.5 時期及び期間

1) 時 期

毎年10月に実施する。

※この時期が選ばれた理由は、これがフィリピンでは雨季にあたり、急性上気道感染、下痢症ともに、この時期に多発し、教材の入手が容易であるためである。

2) 期 間

急性上気道感染、下痢症の両課題とも4週間とする。

各週月曜日から金曜日までの5日間、各日午前9時から4時30分まで、但し、午前、午後30分休憩、昼休み1時間30分の休憩を含む。(日程は、別添-1を参照)

3.6 研 修 計 画

急性上気道感染及び下痢症疾患の二課題を隔年に取り上げる。但し、1987年度は急性上気道感染とする。これを先行させる理由は、過去にWHOの後援による研修を経験しており、準備体制が整い易いことによる。

1) 研 修 概 要

(1) 序 論

- 一 伝染病の疫学
- 一 感染と免疫の理論
- 一 臨床微生物学及び寄生虫学
- 一 疾病の予防

(2) 研究室実習

- 一 デモンストレーション
- 一 研究室実習(個別、集団)
- 一 野外実習、見学

(3) 講義は、全体の25%程度とし、残りは実習とする。

2) 研 修 項 目

- (1) 病原菌の分離培養の基礎技術及びベッドサイドの訓練
- (2) 上記微生物の生物学的性状、例えば毒素産生、 β -ラクタメース産生、抗生剤感受性試

験

(3) 血清型別、電子顕微鏡、動物実験、抗原の直接迅速検出を含む免疫学的診断技術

3) 課題別研修内容

(1) 急性上気道感染

i) 急性上気道感染(予防接種有効疾患を含む)の疫学:講義

ii) 検査材料の採取、輸送法、検鏡検査(染色法を含む):実習

iii) 主要原因病原菌の分離同定:実習

(肺炎球菌、インフルエンザ菌、ジフテリア菌、ブドウ球菌、A群レンサ球菌、クレブシエラ、百日咳菌、レジオネラ、緑膿菌、マイコプラズマ、クラミジア、トラコマチス)

iv) 病原菌の薬剤感受性試験、 β -ラクタメース産生試験:実習

v) ラテックス凝集反応などによる病原細菌抗原の直接迅速検出:実習

vi) 病原ウイルスの分離同定及び血清学的診断(インフルエンザ、パラインフルエンザ、ウイルス、SRV、アデノウイルス、麻疹):実習、デモンストレーション

vii) 蛍光抗体法などによるウイルス抗原の迅速検出法:実習

(2) 下痢性疾患

i) 下痢性疾患の疫学、病原体に関する講義

ii) 検査材料の採取、輸送、検鏡検査:実習

iii) 病原細菌の分離、同定、血清型別:実習

サルモネラ、赤痢菌、コレラ菌、その他の病原性ビブリオ、大腸菌(毒素原性、腸管病原性血清型、組織侵入性を含む)、カンピロバクター、エルシニア、レロモナス、プレシオモナス

iv) 腸管毒素検出法(幼若マウス法による大腸菌耐熱性毒素、逆受身ラテックス凝集反応による大腸菌易熱性毒素):実習

v) セレニー反応(モルモット眼瞼接種法)による侵入性試験:実習

vi) 病原細菌の抗原の免疫学的直接迅速検出法(コレラ菌、その他):実習

vii) ロタウイルス検出法:実習

(電子顕微鏡、免疫電子顕微鏡法による検出 — デモンストレーションを含む)

viii) 検出病原菌の薬剤感受性試験:実習

ix) 食品、飲料水からの病原細菌検出法:実習

x) 飲料水の細菌学的安全性検査:実習

xi) 腸管系原虫、寄生虫の検査:実習

アメーバ症、ギアルジア症、カピラリア症、クリプトスポリヂア症

3.7 割 当 国

下記の国は、RITMからの要望であり、日・比相方持ち帰り、関係者と協議のうえ決定することとした。

19ヶ国

バングラデシュ、ブルネイ、ビルマ、中国、フィジー、香港、マレーシア、ネパール、韓国、パキスタン、P.N.G.、西サモア、シンガポール、ソロモン諸島、スリ・ランカ、タイ、トンガ、バヌアツ、インドネシア

3.8 定 員

16名

なお、うち12名は割当国からとし、フィリピン国内からは4名とする。(フィリピン研修員にかかる滞在費、交通費は、フィリピン政府負担とする。) 但し、割当国からの応募者が少ない場合、フィリピン研修員は4名以上参加できるが、周辺国からの研修員の数は、全体の過半数としなければならない。

3.9 応 募 資 格

- 1) 医療技術分野のB.S以上の資格を有するか、これに相当する者
- 2) 臨床検査室又は公衆衛生検査室分野における細菌学または、ウイルス学領域で、2年以上の実務経験を有する者
- 3) 特に、研究、教職、地方衛生研究検査所、大学付属機関に従事する者
- 4) 45才未満であること

4. 研修実施体制

4.1 RITMの組織及び事業概要

1) 組織

RITMは、事務、臨床、研究の3部門からなり、組織図は別添一2のとおりである。

職員構成は、1986年4月現在で、事務部門97名、臨床部門95名、研究部門105名となっている。

RITMは、アキノ新政権発足後も職員の増員が有り、また予算の削減もないことから、フィリピン政府もRITMの活動に対し、大いなる期待をもっていることがうかがえる。

2) 事業概要

研究所は次の目的を掲げている。

〔研究所全体としての目的〕

1. フィリピンおよび東南アジアにおける熱帯病の研究ならびに防遏方法の開発
2. 技術者および研究者の育成
3. 研究目的に対応する医療の供給

〔各部門の目標〕

事務部門

研究所の目的と方針に従った医療、研究、および研修実施のための事務処理

臨床部門

1. 熱帯病患者の診療
2. 研究部門の目的に対応するに必要な患者群の確保
3. 熱帯病の診断と防遏のよりよい方法と技術開発のための医師および技術者の育成

研究部門

1. フィリピンにおいて流行している熱帯病の診断、治療および予防に関する研究
2. 研究機能増進のための人員養成プログラムの確立
3. 野外医療従事者と関連技術者のための熱帯防遏に応用される研究技術研修プログラムの作成
4. 熱帯病の予防と防遏についての保健省の研究活動の実施

3) 予算

1985年度の予算及び執行状況は以下のとおりである。

Financial Statement: RITM annual report 1985 1 b

Allotment Received, 1985

Philippine Government	P 9,503,656.00
NSTA-MOH-UPHS	1,000,000.00
NSTA Manpower Development Program	48,250.00
Infectious Diseases	301,120.00
Savings for Calendar Year 1984 NSTA Assistance	
TNSTA Assistance	81,970.35
Miscellaneous income	225,266.56
	<hr/>
T O T A L	P 11,160,262.91

Actual Obligations Incurred, 1985

Personal Services:

Salaries	P 4,739,610.14
Honoraria	304,632.00
Representation and Transportation Allowance	42,000.00
Cost of Living Allowance	825,795.32
Hazard Pay	3,200.00
Bonus	543,345.40
	<hr/>
	P 6,458,582.86

Maintenance and Other Operating Expenses:

Travelling Expenses	57,319.75
Sundry	17,582.41
Supplies and Materials	2,234,611.63
Data Management	11,628.35
Workshop, trainings, seminars	645,864.31
Repair & maintenance of gov't vehicles	731,287.63
Spare parts, gas line & oil used	133,324.95
Representation services	555.00
Communication services	7,450.27
Cost of electricity	162,960.21
	<hr/>
	4,002,584.51

Equipment Outlay	52,000.00
Savings for Calendar Year 1985	421,828.98
Income earned for 1985	225,226.56
	<hr/>
T O T A L	P 11,160,262.91
	<hr/>

4.2 R I T Mの関連組織及び支援体制

第三国研修については、他の機関からの直接の支援（講師派遣を含む）は予定されていないが、R I T Mは、保健大臣の直接の指揮監督の下に、政府関係機関（the Muntinlupa Health Office, the UP Health Sciences Center, the Makati Medical Center, the Children's Medical Center等）と協力関係を保ち、活動している。

なお、R I T Mの管理運営のため5つの委員会が設置され、R I T Mが全体として組織的活動をするための各種調整が行われているので、参考までに記載する。

① Advisory Board :

イ. 目的

本研究所活動に係る行政上、研究上の諸事項に関し、所長の諮問に応ずると共に、NSTAならびにUPHSCの参加する研究の計画と実施に関し、所長を援助すること。

ロ. 構成

- a. 委員長 Minister of Health
- b. 委員 Director General, National Science and Technology Authority (NSTA)
- c. 委員 Chancellor, University of Philippines Health Science Center (UPHSC)

② Technical Coordinating Committee :

1980年10月17日署名の討議議録にて設置が合意されたもの。本研究所に対する日本の技術協力プロジェクトの円滑なる実施に責任を負うものである。

イ. 調整委員会の機能

- a. 実施方針ならびに実施手続を定めること。
- b. プロジェクトの実施5カ年計画を策定すること。
- c. プロジェクトの実施を点検すること。
- d. プロジェクトの実施に関し、関係当局に助言すること。

ロ. 調整委員会の構成

フィリピン側	日本側
1. 保健省次官補（本委員会委員長）	1. 首席顧問
2. 熱帯医学研究所長	2. JICAマニラ事務所長
3. 熱帯医学研究所研究訓練部長	3. 専門家
4. 熱帯医学研究所診療部長	4. 在マニラ日本国大使館担当書記官 （オブザーバーとして）
5. NEDA代表	
6. NSDB代表	

N E D A …… National Economic and Development Authority
(国家経済企画庁)

N S D B …… National Science Development Board (国家科学開発委員会)
現在では N S T A = National Science and Technology Authority
(国家科学技術開発庁)となっている。

③ Technical Evaluating Committee :

イ. 目 的

優先度の高い研究計画の構想ならびに形成について責任を負い、同時に N S T A ならびに U P H S C 等からの委託研究による新規プロジェクトならびに研究実施中のプロジェクトの評価と監視を行うこととしている。6カ月に1回開催することとしている。

ロ. 構 成

- a. Philippine Council for Health Research and Development (P C H R D)
- b. National Science and Technology Authority (N S T A)
- c. University of the Philippines Health Science Center (U P H S C)
- d. その他、微生物学、ウイルス学、寄生虫学等を含む、各種特別研究グループの研究者等

④ Institutional Review Board

イ. 目 的

本研究所が実施するすべての研究プロジェクトの評価審査を行い、研究所としての組織的対応の一貫性の確保ならびに人的要素に関することを含む研究に係る適用可能な規則や基準の一貫性の確保を計ることとしている。いわゆるスタッフミーティングと呼ばれるもので、日本人専門家も参加している。原則として2週間に1回開催される。

ロ. 構 成

研究訓練部長が委員長となり、所長、次長、研究訓練部の科長、研究室長から構成されている。地域社会の代表(非専門家)も加わっている。

⑤ Ethical Review Board

イ. 目 的

人間を研究材料として扱うことに関するヘルシンキ協定にもとづく倫理上の諸事項が遵守されているか、ならびに当該主題=患者の福利厚生が安全に保護されているか等を監視することとしている。当委員会は、Institutional Review Board と合同で開催される。

ロ. 構 成

本研究所次長が委員長となっており、所長、研究訓練部長、同部各科長、研究室長の他、

神学者、弁護士、地域社会の指導者、主婦等の非専門家代表も加わっている。

以上のような各種委員会が設置されており、研究所が全体として組織的活動を行うための各種調整が行われている。これらの他、毎週火曜日の午前中は、専門的テーマの下に研究例会が開催されている由であり、研究所全体の実施体制はよく整い、活動的であると云えよう。

4.3 R I T Mの研修能力

R I T Mの年報内容、学会発表、専門雑誌投稿論文の内容、WHOその他からの支援研究費獲得状況などから判断して、現在の本研究所の技術水準はこの種の研修を実施するに十分な域に到達したものと判断される。言うまでもなく、これは現在進行中の技術協力の成果であり、関係者の努力は十分に評価されてよい。

J I C A技術協力に伴う技術移転に加えて、R I T M職員は毎年、先進国或いは国際機関の研修を受けており、これが相乗的な効果をもたらしていると思われる。ちなみに、1981年以降1985年までの間に、18名の職員がこの種の国外研修を受けている（J I C A研修生として訪日したものはこれ以外に14名、ANNEX-3参照）。これらの中には、幹部職員も含まれており、それが自らの技術の向上に役立ったであろうこともさることながら、これによって国際研修のあり方、その水準についても知見を重ねたであろうことも有意義であったと思われる。また、R I T Mの幹部職員のレベルは大学講師クラス（兼職するものが大部分）と評価される。

尚、職員が英語力にすぐれる点も有利である。

また、本研究所では、6種の国内研修、3種の国際研修プログラムが現在進行中であり（ANNEX-5参照）、その経験も第三国研修を可能とする自負につながっているであろう。感染症対策には、検査室機能をふまえた調査研究の推進が必須であるという意識をR I T Mが持ったということは、この国の過去の状況と比較して、急速な発展とうけとめることが出来、この事業の成果につながるといえる。

4.4 研修運営管理能力

上述のとおり、R I T MはWHO後援により1983年に2週間の上気道感染に関わるWorkshopを開催し、本年も10月に同程度のWorkshopの実施が予定されている。またR I T M自身による研修（集団及び個別）も数多く実施されており、これらの実績から、第三国研修の運営管理能力に大宗問題はないと判断される。

4.5 研 修 施 設

1) 研 修 施 設

病原微生物実験室が研修専用にて設けられており、研修生16名を受け入れるに十分なスペースを有する(4名用実験機、各水道、ガス付きが4台)。

但し、この部屋に、実習に最低限必須である以下の機器が設備されていない。

- 1) ふ 卵 器 : 病原細菌培養用
- 2) 冷 蔵 庫 : 診断試薬保存用
- 3) 恒 温 槽 : 免疫学的試験反応などに使用
- 4) 遠 心 器 : 生物学的性状検査などに使用

全所的に見れば、これらの機器はすでに整備され、使用されているが、それらを実習用に流用すると、本来の研究・検査業務に支障を来す恐れがある。また、研修生が他室に整備された機器を利用するとすれば、病原菌を持って廊下を往来することになり、バイオハザード防止の面から言って好ましくない。実験室感染が起れば、研修の評価は地に落ちることになるので、上記の機器の整備は必須であろう。

2) 宿 泊 施 設

R I T Mには、適当な施設がないため、次の2施設が候補として考えられる。

① Social Welfare and Development Center (ANNEX-6 参照)

(住 所) Tagig, Metro Manila

※R I T Mから車で約20分

(宿泊費) シ ン グ ル : ¥ 135.00 / 日 (≒ 1,080 円)

ダ ブ ル : ¥ 180.00 / 日 (≒ 1,440 円)

Extra ベッド : ¥ 45.00 / 日 (≒ 360 円)

(食 費) 朝 食 : ¥ 9.00 (≒ 72 円)

昼 / 夕 食 : ¥ 30.00 (≒ 240 円)

ス ナ ッ ク : ¥ 11.00 (≒ 88 円)

※R I T Mでは、本年10月に実施予定のWHO後援 Workshop で使用予定。

(部屋 の 備 品)

(施 設 概 況)

・ ツインベッド

・ 宿 泊 室

・ トイレ、シャワー

・ 会 議 室

・ 洋服ダンス

・ 食 堂

・ エアコン (有る部屋と無い部屋が有り)

② Manila Garden Hotel

※本ホテルは、青年招へい計画で来日するフィリピン青年の宿泊施設として利用されている。

3) 食 堂

R I T Mには食堂が設けられており、宗教上の食事の問題に対しても、配慮は充分なされ
るとのことであった。

4.6 第三国研修実行予算

調査団帰国間際に、研修予算が提示されたため、残念ながら具体的な検討がなされなかった。
このため、R I T Mから提示された予算は、今後検討のための参考資料としてNote of Under-
standingに掲載することとした。

5. 我国の他の経済協力との関係

既述のとおり、熱帯医学研究所プロジェクトが1988年8月31日まで実施されることとなっており、同プロジェクトからの支援（日本人専門家からの技術面でのアドバイス、関係資機材等）が期待される。

また、RITMは我国の無償資金協力により敷地内に研修センターの建設を要請しており、同施設が建設されれば、宿泊施設の問題は解消される。

6. 当該分野に対する他の先進国の協力概要

既述のとおり、WHO後援によりWorkshopを実施しており、また、WHOをはじめとする国外からの研究費援助が多数見られる。

7. 第三国研修実施の妥当性

今回の調査を通じ、

- ① フィリピン側関係者（RITM、保健省、NEDA）及びJICAフィリピン事務所の第三国研修実施への熱意が高いこと、
- ② RITMに充分なる研修運営管理及び指導能力が認められること、
- ③ 周辺国に第三国研修実施のためのニーズが有ること、
- ④ 第三国研修の実施は、熱帯医学研究所プロジェクトの終了にあたり、その卒業論文ともなるべきものであり、プロジェクト実施期間中に第三国研修を実施し、成功裸に終了させることは、RITMに自信をつけさせ、プロジェクトをスムーズに比側へ移行させることとなること等、より、第三国研修実証の妥当性は非常に高いと判断される。

8. 日本側の協力

8.1 経費分担

4.6で述べたとおり、研修の予算について十分な協議がなされていないが、日本側の負担は次のものが必要とされる。

- ① 国外からの研修員にかかる往復の渡航費及び滞在費
- ② 研修に必要な消耗品費
- ③ 通信連絡費

8.2 派遣専門家

各回細菌学分野およびウイルス学分野各1名、合計2名の専門家の派遣を考える必要がある。これらの専門家は、研修講師経験を有し、英語力のある中級以上のものでなければならない。この場合、現在進行中のRITM技術協力プロジェクトにおいて派遣された経験を有する専門家の中から優先して選ばれることが望ましい。実習を伴う研修では、現地講師および補助者陣容との人間関係が準備及び実施を効果的にするために大切であると考えられるからである。

別項で述べるように、RITMにはこの種の実習を含む研修事業を実施するに十分な指導能力があることは認められるが、指導者の数においてやや不安がある。実習の部分は技術者層に全面的に依存されることが予想されるが、それらの者すべてに指導能力があるかどうかについては多少の不安が残る。日本から派遣される専門家は中級以上が望ましい。

初年度には、現行の技術協力の専門家特にチームリーダーによる指導が期待出来るが、二年目以降はこれらの専門家の指導は期待出来ないことに注意を要する。但し、このことは、フィリピンにおける研究者と研究補助者との身分の明確化が日本におけるそれよりアメリカの実情に近く、このようなシステムになれない日本人が陥りやすい杞憂にすぎないかも知れない。

8.3 C/P受け入れ

研修カリキュラムの概要は、本調査団滞在中に検討され、妥当な内容を持ち十分な水準にあることが認められたが、実施に当たっての細部の準備、さらには最先端の技術の導入のため、或は実施方法の詳細な打合せのため、カウンターパートの受け入れも考慮されてしかるべきである。特に第一回及び第二回の実施前にこれが実現されれば有効であろう。その場合、中堅以上の人材の受け入れが望ましい。期間は1ヶ月程度で充分である。隣接諸国の現状を視察を与える方法があれば、それも有効に作用する筈である。

なお、初年度及び次年度にはそれぞれの課題の教科書作成の仕事が入る。作成にあたっては

技術面での J I C A の協力が或る程度必要となるであろう。このことは、研修内容が、他の機関で実施されている同種の研修と比較して遜色がないものであらしめるため必須である。

9. 協 議 内 容

9.1 協 議 経 過

- 1) R I T M が用意したプロポーザルに基づき、R I T M 関係者との間で、金子リーダー及び一ノ瀬調整員同席のもとに、研修の骨子及び概要等につき第 1 日目の協議を行った。
- 2) 第 2 日目は、第 1 日目の協議結果を踏まえ、急性呼吸器疾患及び下痢性疾患にかかる研修内容について、具体的な検討を行った。
- 3) 上記 2 日間の協議結果を Technical Coordinating Committee にはかり、内容を更に検討した。
- 4) 以上の結果、本件研修にかかる基本計画に相方合意をみ、協議経過及び研修計画等について Minutes of Meeting にとりまとめ、9 月 8 日相方署名を交わした。

9.2 協 議 内 容

協議した事項は次のとおりである。

1) Organization Meeting の実施について

R I T M は、初年度（1987 年度）は、2 週間程度の Organization Meeting なるものを開催し、参加各国からのカンントリーレポート発表による現状把握及びニーズ調査をすることを希望した。

これに対し、我方は、Meeting を開催しても議論百出となり、意見の統一を求めることの困難なことが予想されること、発送を予定している Questionnaire により意見の集約が可能と判断されること等を、説明した。

この結果、R I T M は初年度から通常の形態で研修を実施することを了解し、Organization Meeting は実施しないこととなった。

2) タイトルについて

プロポーザルでは、“Workshop on the Laboratory Diagnosis and Research Techniques in Acute Respiratory Infection and Diarrheal Diseases in the Asian Region”であったが、割当国に太平洋諸国も入ることが予定されるところ、“In the Asian Region”は削除し特に地域名は付記しないこととなった。

3) エバリュエーションの実施について

第 1 及び 3 回目に急性上気道感染、第 2 及び 4 回目に下痢性疾患について Workshop を実施

するため、第1年目、第2年目のWorkshop終了後、日・比合同評価会 (Joint Evaluation) を開催し、第3年目以降のWorkshopに寄することとした。

4) R I T M 所員への謝礼支払について

WHO後援のWorkshopではR I T M所員への謝礼支払いがあった経緯も有り、今回の第三国研修においても、同様の処置をとることの要望がR I T Mよりあった。しかしながら、J I C A ベースの第三国研修では一切負担できない旨説明をし、R I T Mは了解した。

5) フィリピンからの研修参加人数について

R I T Mは、毎回少なくとも4名(できれば4名以上)のフィリピン人研修員を参加させることを強く希望したが、上述のとおり参加人数の過半数を越えない範囲で受け入れることとした。

6) 閉講式の実施及び修了証書の発行者について

Workshopの最終日の午後に閉講式をR I T Mで開催し、R I T M所長及びJ I C A フィリピン事務所長併記の修了証書を発給することが了解された。

7) 割当国について

R I T Mのプロポーザルに対し、我方は原則独立国を割当国とする説明により New Caledonia, Cook Is, Tahiti の3ヶ国を削除する旨、提案したが合意に達せず、Note of Understandingの割当国の記載ぶりはR I T Mからの提案どおり19ヶ国とし、R/D調査団との協議事項とした。

8) Questionnaire について

プロポーザルに添付のQuestionnaireを、受領国が回答し易いよう、できるだけ簡単、明瞭にした。

9.3 実施に当たっての留意事項

1) 我方の協力体制

予定研修内容が忠実に実行されれば、その効果は十分に期待されるが、前にも述べた通り、実習に当たっては全期間を通じて常時研修員の質問に答えうる中級以上の経験を持つ講師(学問的、技術的背景を十分に有する責任者)が存在することが必要であり、このことに対する留意が肝要である。主催の責任はあくまでもフィリピン側にあるとは言え、その背後にある日本側の責任は費用の支出主体としての意義に留まらない。研修内容の国際的評価に対する責任も意識されなければならない。この点では教科書の作成にJ I C Aが関与することで解決出来る部分もある。

技術的な面では、例えば薬剤耐性検査法など、国際的方法論の標準化が試みられている分野があるので、それを熟知した上での方法論の採用が必要である。

2) Questionnaire の発送

R/D締結後、R I T Mより Questionnaire が割当国に発送されるが、各国のニーズ把握を早急に、かつ適確に行なうことが第三国研修を成功させる鍵となる。このため、我方も割当国にある J I C A事務所の協力を得、Questionnaire の早期配付、早期回収について、R I T Mへの協力を計ることが肝要である。

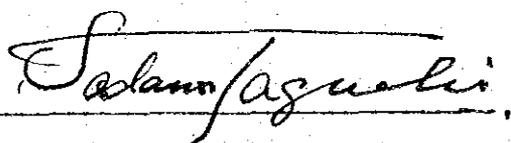
NOTE OF UNDERSTANDING
CONCERNING THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME ENTITLED
"WORKSHOP ON THE LABORATORY DIAGNOSIS AND RESEARCH TECHNIQUES
IN ACUTE RESPIRATORY INFECTIONS (ARI) AND
DIARRHEAL DISEASES (DD)"

The Japanese Preliminary Survey Team (hereinafter referred to as the Team) organized by the Japan International Cooperation Agency (JICA) and headed by MR. SADANORI TAGUCHI, JICA, visited the Republic of the Philippines from 2-9 September 1986 for the purpose of making a preliminary study on the possibility of organizing a Third Country Training Programme entitled "Workshop on the Laboratory Diagnosis and Research Techniques in Acute Respiratory Infections (ARI) and Diarrheal Diseases (DD)".

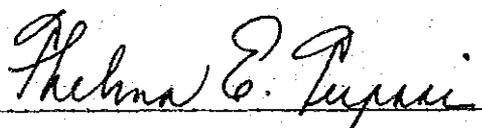
During its stay in the Philippines, the Team had a series of discussions with the authorities concerned in the Research Institute for Tropical Medicine (RITM), Philippines, with respect to the framework of the Programme.

Through these discussions, the Team recognized the achievements of the ongoing Technical Cooperation Project at the RITM which have made the Institute capable of implementing the Third Country Training Programme. In line with the concept of the Technical Cooperation among Developing Countries (TCDC) and the further development of the Institute, the Team and the authorities confirmed the significance of implementing the Programme, and came to a tentative understanding on the framework of the implementation of the Programme as described in the document attached hereto.

Alabang, Muntinlupa, Metro Manila
September 8, 1986



SADANORI TAGUCHI
Head, JICA Preliminary Survey Team



THELMA E. TUPASI, M.D.
Director, Research Institute for Tropical
Medicine

Minutes of the Meeting Between the JICA Preliminary
Survey Team & the RITM Staff on the TCTP
RITM, Alabang, Metro Manila, Philippines
4 - 5 September 1986

Survey Team

Mr. S. Taguchi
Dr. M. Ohashi
Mr. S. Nabeya

RITM Staff

Dr. T. E. Tupasi
Dr. M. C. Saniel
Dr. N. P. Salazar

JICA Team

Dr. Y. Kaneko
Mr. J. Ichinose

Background:

The possibility of undertaking a third country training program has been under study at the RITM since 1984. The formal proposal was submitted to the Ministry of Health 10 April 1986, endorsed to the National Economic Development Authority (NEDA) 23 May 1986, and the Ministry of Foreign Affairs 16 July 1986 and formally submitted to the Embassy of Japan 13 August 1986. The Philippines shall be the host country and will be assisted by Japan through the Japan International Cooperation Agency (JICA) through the Research Institute for Tropical Medicine (RITM).

Director Taguchi confirmed the support of the JICA for the proposal of the Third Country Training Programme. The members of the JICA domestic committee: Dr. Ohashi, Dr. Kobari, Dr. Hayashi, and Dr. Goya welcomed the proposal for the TCTP.

There have been a number of workshops and training courses undertaken at the RITM including workshops on acute respiratory infection laboratory technology and on research design and methodology with international and national participation. Two workshops have been undertaken in 1982 and two workshops are going to be undertaken in 1986.

The TCTP must emphasize its attractive features and its scope must be appropriate to the various levels of laboratory capabilities of the different participating countries.

The Proposed Programme :

The title agreed upon is: "Workshop on the Laboratory Diagnosis and Research Techniques in Acute Respiratory Infections (ARI) and Diarrheal Diseases (DD)."

1. Rationale of the Project

Reliable and appropriate technology has been developed in recent years on the laboratory diagnosis of tropical infectious diseases. This technology includes better methods of isolation and identification of etiologic agents based on rapid immunologic tests to detect antigenic determinants and/or specific immune responses to infection utilizing simple methods which are convenient to adopt in the field situation. The benefits gained from such refinements in diagnostic tools are the proper recognition and prompt treatment of disease and the formulation of effective control measures well within the capabilities of the people.

The TCTP may be considered as the culmination of the on-going technical cooperation project between the governments of Japan and the Philippines at the Research Institute for Tropical Medicine (RITM). A sufficient level of expertise has been attained by the research staff of the RITM which will make it possible to undertake a TCTP as a way of sharing with other developing countries technology transferred through the technical cooperation project.

2. Objectives of the Workshop:

2.1. To develop laboratory capabilities in the basic procedures in the isolation and identification of the etiologic agents of acute respiratory infection (ARI) including vaccine preventable diseases and diarrheal diseases (DD), of bacterial, viral and parasitic origin.

2.2. To develop laboratory capabilities in special rapid diagnostic tests based on immunological and/or biochemical reactions, or the biological properties of disease-causing organisms.

2.3. To update knowledge on the requirements for establishing and/or maintaining a diagnostic laboratory for infectious disease.

3. The implementation of the programmes:

The training shall consist of two modules in the following areas of concern to be conducted alternately each year :

3.1. Acute Respiratory Infections (ARI)

3.2. Diarrheal Diseases (DD)

The detailed description of the above modules are in Annex I and II, respectively. Each module will be conducted for 4 weeks each. At the end of each year for the first two years, an evaluation of the programme shall be undertaken and a revision of the course curriculum might be done according to results of this evaluation.

4. Scope of the training modules:

4.1. Both training modules will deal with the following:

4.1.1. Basic techniques in the isolation or cultivation of causative organisms and the conduct of laboratory as well as bedside procedures.

4.1.2. Study of the biological characteristics of these organisms including toxin production, betalactamase production, and antibiotic susceptibility.

4.1.3. Application of immunodiagnostic technics, including serotyping, electron microscopy, animal experimentation, and rapid antigen detection.

4.2. Specific organisms will be studied under the following subtopics:

4.2.1. ARI- vaccine preventable diseases - diphtheria, pertussis, measles.

H. influenzae, S. pneumoniae, Klebsiella, pseudomonas, S. aureus, S. pyogenes, influenza and parainfluenza viruses, Respiratory Syncytial Virus, adenoviruses, M. pneumoniae, L. pneumophila, Chlamydia trachomatis and Pneumocystis carinii.

4.2.2. DD - Salmonella, Shigella, Vibrios, ETEC, EPEC, EIEC, Aeromonas, Campylobacter, and rotavirus, yersinia
Parasites - E. histolytica, G. lamblia, C. philippinensis, cryptosporidia, and others.

5. General course content:

5.1. Introductory lectures on:

- Epidemiology of infectious diseases
- Infection and immunity
- Diagnostic microbiology and parasitology
- Disease prevention and control

5.2. Laboratory:

- Demonstrations
- Bench work (individual/group work)
- Practicum/fieldwork

5.3. The curriculum will consists of 25% lecture and 75% laboratory work.

6. Faculty:

The teaching staff is composed of chief and senior science research specialists from RITM some of whom are concurrently faculty members of universities in the country and their counterparts who are selected JICA consultants also from universities and medical research institutions in Japan. The laboratory and research support staff is represented by highly experienced technical personnel who are directly involved in on going research projects. This contingent of clinicians, basic scientists possess years of experience in academe and productive research in the health sciences. The laboratory and research support staff is represented by highly trained technical personnel who are directly involved in on going research projects.

7. Project Implementation:

The organizational meeting previously proposed was considered not essential and the planning of the programme shall take into consideration the responses to the questionnaire. The questionnaire has been simplified. (Annex III). The most important information to be obtained is the intention of the country to send participants in the workshop and the qualification of the country nominees. Additional information to be obtained are their comments on course content and suggestions for modification.

The plan of activities in the 5 years implementation of the project is shown in Figure 1. The preparation of the training materials will be done by RITM staff with the assistance of the JICA consultants. This activity will be pursued more intensely in the first 2 years of the programme and will be undertaken with more experience and facility in the subsequent years. As previously agreed upon, the modular alternating courses on ARI and DD will be followed; each to be given on alternate years, each module to last for 4 weeks. Yearly evaluation by a joint team shall be undertaken at the end of the workshop in the first two years. A course curriculum re-evaluation will be done on year 2 and future implementation of the programme will depend upon results of this evaluation.

B. Country commitment:

The responsibilities of the host country (Philippines) and Japan are enumerated in attached Chart I. Therea shall be 16 participants out of which 12 shall come from invited countries and 4 from the Philippines but at no time should the Philippine participants exceed 50% of the total participants.

Initially, invitations to participate in the programme maybe extended to the following:

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1. Bangladesh | 10. Pakistan |
| 2. Brunei | 11. Papua New Guinea |
| 3. Burma | 12. Western Samoa |
| 4. Peoples Republic of China | 13. Singapore |
| 5. Fiji | 14. Solomon Islands |
| 6. Hongkong | 15. Sri Lanka |
| 7. Malaysia | 16. Thailand |
| 8. Nepal | 17. Tonga |
| 9. Korea | 18. Vanuatu |

9. The tentative budget for the 5 year programme is shown in Annex IV. This budget was not discussed in detail and will serve as a reference for future discussion.

CHART 1.

HOST COUNTRY	JAPAN
a. Provision of training facilities and equipment	a. Dispatch of expert(s) for giving advice and lectures
b. Formulation of curriculum	b. Provision of textbooks and other training aids which are not available in the host country
c. Assignment of lecturers instructors and coordinations	c. Bearing expenses for invitation of participants (i.e. international economy-class flight fare, accommodation, per-diem and medical insurance premium)
d. Preparation of textbooks and other training aids	d. Bearing training expenses (i.e. honoraria for external lectures, transportation, secretarial services and material procurement)
e. Drafting of a Course Information	
f. Distribution of a Course Information to the governments which the course are offered to	
g. Acceptance and screening of applications and notification of the results	
h. Arrangement of overseas travel and accommodations for participants	
i. Operation and administration of the course	
j. Submission of a statement of expenditures and a course report to Japan	

FIGURE I
 Implementation Scheme for the Third Country Training Programme
 "Workshop on the Laboratory Diagnosis and Research Techniques
 in Acute Respiratory Infections (ARI) and
 Diarrheal Diseases (DD)"

ACTIVITIES	YEAR OF OPERATION				
	I	II	III	IV	V
	1987	1988	1989	1990	1991
1. Preparation of manuals and other training aids	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
2. Workshop on Laboratory Diagnosis and Research Techniques in Infectious Disease	ARI	DD	ARI	DD	ARI?/DD?
3. Evaluation (joint team)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
4. Curriculum review		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	

ANNEX I

Third Country Training Programme

Workshop Module on Acute Respiratory Infection

1. Objectives:

1.1. General : To develop laboratory and research capabilities in acute respiratory infections.

1.2. Specific: By the end of the workshop the participants shall be able to:

- * develop or improve laboratory procedures for the isolation and identification of ARI agent

- * be able to detect and identify the etiologic agent by means of reliable and specific technology

- * act as trainers to impart skills/knowledge to others working with them

2. Justification:

Acute respiratory tract infections are the major causes of mortality and morbidity in children in developing countries. The elucidation of ARI etiology and epidemiology is essential in the development of strategies for control and prevention.

3. Duration: 4 weeks

Venue : RITM, Alabang, M.M., Philippines

4. Faculty

Dr. Thelma E. Tupasi	Ms. Lerma Baes
Dr. Marilla G. Lucero	Ms. Lillian de Leon
Dr. Manuel Dayrit	Mr. Iluminado Livelo
Dr. Gloria Casabal	Ms. Fem Julia Paladin
Dr. Nelia P. Salazar	Ms. Lenilyn Manlapaz
Ms. Cleotilde Torres	Ms. Sitti-Sarah Mohammad
Ms. Lydia Sombrero	

5. JICA consultants (2) in ARI bacteriology and virology

6. Participants:

Total of 12 from third countries and 4 from the Philippines

Qualifications:

- * Should have at least a B.S. degree in Medical Technology or its equivalent
- * Should have at least worked for 2 years in a bacteriology/virology laboratory
- * Should be involved in research/teaching activities or, must be a staff of a regional laboratory or, must come from university centers involved in research work
- * Must not be more than 45 years old

7. Course contents (Lecture and laboratory work)

- * General lectures on epidemiology of acute respiratory including vaccine preventable diseases
- * Collection and transport of specimens
- * Microscopy of respiratory specimens
Gram stain

* Identification of bacterial pathogens:

S. pneumoniae, H influenzae, C. diphtheriae, S. aureus,

S. pyogenes, K. pneumoniae, and other Gram-bacilli,

B. pertussis, L. pneumophila, M. pneumoniae, C. trachomatis

* Antibiotic sensitivity testing

* Rapid bacterial antigen detection:

CIE and Latex agglutination

* Isolation and identification of viral pathogens:

RSV, Adenovirus, Influenzae A & B, Parainfluenzae 1,2,&3

* Rapid viral antigen detection

Draft schedule on the workshop module on Acute Respiratory Infection

9:00 am 10:30 1:30 3:00

Week I

Mon	Opening Ceremonies	Lecture 1: Orientation Epidemiology of ARI (TUPASI)	Lab 1 : Laboratory Safety : Requirements (LIVELO)	Lab. 1 Cont. Laboratory Safety : Practices (LIVELO)
Tue	Lecture 2: Vaccine Preventable Diseases (KANEXO)	Lab. 2 : Respiratory Specimen Collection, Handling & Microscopy (LIVELO)	Lab. 2 : Direct Micros- copy of Respira- tory Specimens	Lab. 2 : Inoculation of Unknown #1 to primary plates
Wed	Lab. 3 : Strepto- coccus pneumoniae (DE LEON)	Lecture 3: Antibiotic Susceptibility Testing (TUPASI)	Lab. 3: Continuation	Lab. 4: Inoculation of un- known # 2 in primary plates
Thu	Lab. 4 : Hemophi- lus influenzae (DE LEON)	Lecture 4 Corynebacterium diphtheriae (KANEXO)	Lab. 4: Cont'n of Lab. 4 Include sensitivity testing	Lab 5: Inoculation of un- known #3 in Potassium Tellurite
Fri	Lecture 5 : Isolation, identification of Bordetella pertussis (KANEXO)	Lab. 5 Con't. Immunofluores- cence testing for Borde- tella pertussis (PALADIN)	Lab. 5: Cont'n of Lab 4 and 6, process un- known # 2 & 3	Lab 6: Inoculation of un- #4 in BG agar plate

Week II

Mon	Lecture 6: Antibacte- rial activity assay of serum K. pneumoniae (DE LEON)	Lab. 6: Continuation	Lab 7: Performance of anti- bacterial activity assay and process un- known #4	Lab 7 Inoculation of un- known #5
Tue	Lecture 7 : Staphyloco- ccus aureus (LIVELO)	Lab. 7 : Other gram ne- gative microorganisms (SOMBERO)	Lab 7 : Cont'n of lab 9 & 10, process unknown #5	Lab 8 : Inoculation of un- known #6
Wed	Lecture 8 : Rapid tech- niques for Bacterialis antigen detection P. catarrhalis (DE LEON)	Lab. 8 : Continuation	Lab 9 : CIE & latex agglu- tination, cont'n of un- known #6	Lab 9 : Cont'n & inoculation of unknown #7
Thu	Lecture 9 : Chlamydia Trachomatis L. pneumoniae (LIVELO)	Lab. 9: Continuation	Lab 9 : Cont'n of lab 14 unknown #7	Lab 10: Inoculation of un- known #8 and FA staining of Legionella
Fri	Lecture 10: Mycoplasma pneumoniae P. carinii (LIVELO)	Lecture 11 Continuation	Lab 10 : Cont'n identify unknown #8	Lab 11: Microscopy of Pneumo- cystis carinii

10 - 10:30 am Coffee break

	9:00 am	10:30	1:30	3:00
<u>Week III</u>				
Mon	Lecture 12: EPI programme in the Philippines (CASABAL)	Lecture 13: Epidemiology of Measles (LUCERO)	Lab. 11: Complete laboratory work	Lab. 11: Discussion and Summation
Tue	Lecture 14: Introduction: Laboratory Diagnosis of Respiratory Virus Infection; Cell Culture Techniques and Cell lines (TORRES)	Lab. 12: Specimen collection, handling and transport (PALADIN)	Lab 12: Demonstration of subculture cell lines	Lab 12: Inoculation of unknown specimens in various cell lines
Wed	Lecture 15: Virus detection: Cytopathology of RSV & Adenovirus influenzae & Parainfluenzae (TORRES)	Lab. 12: Virus identification & serodiagnosis: Neutralization test (PALADIN)	Lab 13: Neutralization test Continuation	Lab 13: continuation
Thu	Lecture 16: Virus identification: Hemagglutination & hemadsorption (PALADIN)	Lab. 14: Virus identification & sero diagnosis: Complement Fixation (TORRES)	Lab 14: Hemagglutination Inhibition	Lab 15: Complement fixation
Fri	Lecture 17: Virus identification & serodiagnosis: Complement fixation (PALADIN)	Lecture 15: (Continuation) Complement fixation (PALADIN)	Lab 16: Continuation of CPE & identification by IF	Lab. 16: (Continuation)
<u>Week IV</u>				
Mon	Lecture 18: Principles of immunofluorescence (PALADIN)	Lab. 17: Processing & staining technique (PALADIN)	Lab 17: Processing of specimens for IF test	Lab 17: Continuation
Tue	Lab 18: Staining of specimens for IF test	Lab. 18: Continuation	Lab 18: Reading of stained slides under IF microscope	Lab 18: Continuation
Wed	Lecture 19: Diagnostic application of IF test (TUPASI)	Lecture 20: Diagnostic application of viral serology (TUPASI)	Lab 19: Continuation of Lab 22: HA or HI testing of unknown	Lab 19: (Continuation) Identification of unknown
Thu	Practicum 1: Community field work	Practicum 1: Continuation	Practicum 2: RITM ward	Practicum 2: Continuation
Fri	Lecture 21: Summation and written examination, evaluation	Lecture 21: Continuation	Closing Ceremonies	

10 - 10:30 Coffee break 12 - 1:30 Lunch 2:30 - 3:00 Coffee break

Annex II

Third Country Training Programme

Workshop Module on Diarrheal Diseases

1. Objectives:

- 1.1. General: To develop laboratory capabilities in the isolation and identification of enteric pathogens associated with diarrheal disease.
- 1.2. Specific: To develop among participants the capability to :
 - * identify and isolate parasitic, bacterial and viral pathogens causing diarrheal diseases; perform serotyping and rapid antigen detection for specific pathogens
 - * do antimicrobial susceptibility tests
 - * analyze contaminated food samples and
 - * bacteriological test for water potability

2. Justification:

New pathogens have emerged as causative agents of diarrhea over the last decade. Their discovery is largely due to the development of novel laboratory techniques. Studies show that the newer pathogens (particularly rotavirus, Campylobacter and ETEC) are significant causative agents of diarrheal disease in infants and young children in developing countries. There is therefore a need to update and improve laboratory techniques in hospitals, research centers and other institutions to widen our knowledge about causative agents in diarrheas and their epidemiology, to

improve surveillance, to increase the number of skilled staff with research potential, and in some cases, to aid in the management of diarrhea.

3. Duration: 4 weeks

Venue : RITM Alabang, M.M., Philippines

4. Faculty

Dr. Mediadora C. Sanial	Ms. Fe Leano
Dr. Thelma E. Tupasi	Ms. Lydia Sombrero
Dr. Nelia P. Salazar	Ms. Elizabeth Trajano
Dr. Dr. Manuel Dayrit	Ms. Rosa Mate
Dr. Normando Gonzaga	Ms. Jocelyn Villanueva
Mr. Iluminado Livelo	Ms. Josefina Geronimo
Ms. Cleotilde Torres	

5. JICA consultants in DD bacteriology and virology (2)

6. Participants

Total of 12 from the third countries and 4 from the Philippines

Qualifications:

- * Should have at least a B. S. degree in Medical Technology or its equivalent
- * Should have at least worked for 3 years in a bacteriology/virology laboratory
- * Should be involved in research/teaching activities, or must be a staff of a regional laboratory, or must come from university centers involved in research work
- * Must not be more than 45 years old

7. Course contents (Lecture and laboratory work)

1. General lectures on epidemiology and etiologic agents of diarrhea.

2. Primary stool analysis

- * collection and transportation of specimens
- * microscopic examination for fecal leukocytes and parasites
- * inoculation of primary isolation media

3. Identification and serotyping of bacterial isolates in stool specimens:

- * Salmonella, Shigella, E. coli (ETEC, EPEC, EIEC), Yersinia enterocolitica, V. cholerae O1 and non-O1, other vibrios, Plesiomonas, Aeromonas, and Campylobacter
- * Assays for enterotoxins (infant mouse assay for ST; RPLA for LT and CT) and Sereny test for invasiveness
- * rapid antigen detection for specific pathogens

4) Assays for rotavirus detection:

- * ELISA
- * RPHA
- * Direct electron microscopy and immune electron microscopy (demonstration)
- * rotavirus antibody detection

5) Antimicrobial susceptibility testing:

- * MIC determination
- * agar diffusion technique

6) Bacteriologic culture of contaminated food sample to detect :

- * Salmonella, Shigella, and vibrios including *V. parahaemolyticus*
- * Staphylococci
- * *Clostridium perfringens*
- * *Bacillus cereus* and other pathogens

7) Bacteriological analysis of water for potability

8) Identification of diarrheal parasites: *E. histolytica*, *G. lamblia*, *C. philippinensis*, and Cryptosporidia.

MODULE ON DIARRHEAL DISEASES

	9:00	10:30	1:30	3:00
<u>Week I</u>				
Mon	Opening Ceremonies	Lecture 1: Epidemiology and Etiology of Diarrheal Diseases	Lecture 2: Laboratory Safety Practices	Tour of facilities
Tue	Lecture 3: Collection, transport and processing of stool specimens	Lecture 4: Diarrheagenic E.coli: ETEC, EPEC and EIEC	Laboratory 1: Initial processing of stool specimens	Laboratory 2: Continuation of lab 1
Wed	Lecture 5: Salmonella and Shigella	Laboratory 3: Processing of isolated pathogens	Laboratory 4: Continuation of lab 3	Laboratory 5: Inoculation of unknown # 1
Thu	Lecture 6: Vibrio cholerae 01 & non 01, other vibrios; Aeromonas	Laboratory 6: Continuation of labs 4 & 5	Laboratory 7: Preparation of crude isolates for ETEC assays	Laboratory 8: Inoculation of unknown # 2
Fri	Lecture 7: Campylobacter and Yersinia	Laboratory 9: Continuation of labs 7 & 8	Laboratory 10: Special Lab techniques	Laboratory 11: Continuation of lab 10
<u>Week II</u>				
Mon	Lecture 8: Antibiotic Susceptibility Testing: disk diffusion method	Lecture 9: MIC determination by tube dilution and agar dilution techniques	Laboratory 12: Antibiotic susceptibility testing	Laboratory 13: Continuation of lab 12
Tue	Lecture 10: Storage of pathogens	Laboratory 14: Reading of sensitivity plates/MIC's	Laboratory 15: Continuation of lab 14	Laboratory 16: Inoculation of unknown # 3
Wed	Lecture 11: Detection of bacterial contamination of food samples	Lecture 12: Collection, processing and transport of food samples	Lecture 17: Continuation of lab 16	Laboratory 18: Processing and inoculation of food samples
Thu	Lecture 13: Identification of Agents of Food Poisoning: Staphylococci and Bacillus cereus	Lecture 14: Identification of Agents of Food Poisoning: Salmonella, Shigella and Vibrios incl. V. parahaemolyticus	Laboratory 19: Continuation of lab 18	Laboratory 20: Inoculation of unknown # 4

10 - 10:30 Coffee break 12 - 1:30 Lunch 2:30 - 3:00 Coffee break 4:30 Adjournment

Fri	Lecture 15: Identification of Agents of Food Poisoning: Clostridium perfringens	Lecture 16: Other agents of food poisoning	Laboratory 21: Continuation of lab 20	Laboratory 22: Continuation of lab 21
<u>Week III</u>				
Mon	Lecture 17: Parasitic agents of diarrheal diseases	Lecture 18: Special techniques in parasitology incl. immunodiagnostic assays	Laboratory 23: Processing of stool specimens (direct fecal smears, concentration techniques)	Laboratory 24: Special staining procedures and culture techniques
Tue	Laboratory 25: Distribution and processing of unknowns for parasitic agents	Laboratory 26: Continuation of lab 25	Laboratory 27: Continuation of lab 25	Laboratory 28: Continuation of lab 25
Wed	Lecture 19: Introduction to the laboratory diagnosis of viral pathogens of diarrheal disease	Lecture 20: Assays for rotavirus detection in stool specimens: ELISA, RPHA, etc.	Laboratory 29: Rotavirus - ELISA	Laboratory 30: Rotavirus - RPHA
Thu	Lecture 21: Rotavirus antibody determination	Laboratory 31: Continuation of lab work in rotavirus	Laboratory 32: Use of EM & IEM for detection of rotavirus & other viruses in stool specimen	Laboratory 33: Continuation of lab 32
Fri	Laboratory 34: Continuation of lab 31	Laboratory 35: Continuation of lab 31	Laboratory 36: Continuation of lab 31	Laboratory 37: Continuation of lab 31
<u>Week IV</u>				
Mon	Lecture 22: Collection, processing and transport of water samples	Lecture 23: Microbiological examination of water: MPN Method for coliforms, membrane filtration technique	Laboratory 38: MPN Method	Laboratory 39: Membrane filtration technique
Tue	Laboratory 40: Continuation of labs 38 & 39	Laboratory 41: Continuation of lab	Laboratory 42: Continuation of lab	Laboratory 43: Continuation of lab
Wed	Review of all topics taken	Review of all topics taken	Field trip to other institutions (San Lazaro H, Bureau of Research & Laboratories)	Practicum: RITM OPD and Adm. Section
Thu	Written Examination	Written Examination	Practicum: RITM wards	Practicum: RITM OPD and Adm. Section
Fri	Course Evaluation	Graduation Ceremonies and Awarding of Certificates		

ANNEX III

JICA-ASSISTED THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAM AT RITM

I. Background Information

The Research Institute for Tropical Medicine (RITM), a research facility of the Ministry of Health, Republic of the Philippines plans to offer a Third Country Training Programme (TCTP) entitled, "Workshop on the Laboratory Diagnosis and Research Techniques in Acute Respiratory Infections (ARI) and Diarrheal Diseases (DD) through JICA (Japan International Cooperation Agency). The essence of JICA's TCTP is to provide relevant training opportunities to participants from other countries (the third country component) and to promote inter-country cooperation through a designated host country, in this case, the Philippines.

The objectives of the workshop are:

1. To develop laboratory capabilities in basic procedures of isolation and identification of the etiologic agents of ARI (including vaccine preventable diseases) and DD.
2. To develop laboratory capabilities in special rapid diagnostic tests based on immunological and/or biochemical reactions, or the biological properties of disease-causing organisms.
3. To update knowledge on the requirements for establishing and/or maintaining a diagnostic laboratory for infectious disease.

The first workshop, consisting of a training course on ARI, is scheduled to commence in October, 1987 for a period of four weeks. The second training course, DD will be offered in October, 1988. Participants from third countries will be provided round-trip flight fare (economy class), accommodation, per diem and medical insurance premium by the government of Japan through JICA. Each country will be invited to nominate one (1) principal and one (1) alternate each year; vacant slots will be filled up by the alternates.

RITM will select participants in each course with the following minimum qualifications:

1. B.S. degree in Medical Technology or its equivalent.
2. Two years experience in a bacteriology/virology laboratory.
3. Involvement in research and training activities in an accredited medical research institution or hospital, regional laboratory, public health laboratory, or university medical center.

4. Sufficient command of spoken and written English
5. Not more than 45 years old.
6. Certification of good health.

II. Questionnaire

Your response to the following questionnaire will help identify specific needs and interests to be considered in designing the format and conduct of the workshop. Kindly return these forms to RITM by (specify date).

A. Questions regarding sending agency

1. Would you be able to send one participant for the ARI workshop in 1987? Yes No
2. Would you be able to send one participant for the DD workshop in 1988? Yes No
 Undecided
3. If (1) and (2) are both in the affirmative, will it be the same nominee another person
4. What sort of agency will be represented?
 Government hospital Private hospital
 Medical research laboratory Regional health center
 Teaching institution or training center Others, specify
5. How large is the population being served by the agency?
 less than 500 20,000-30,000
 500-1000 30,000-40,000
 1000-5000 40,000-50,000
 5000-10,000 50,000-100,000
 10,000-20,000 more than 100,000
6. What are the 10 leading causes of morbidity and mortality in the locale?

MORBIDITY	MORTALITY
<input type="checkbox"/> Bronchitis, emphysema, asthma	<input type="checkbox"/> Pneumonias
<input type="checkbox"/> Influenza	<input type="checkbox"/> Diseases of the heart
<input type="checkbox"/> Diarrhea	<input type="checkbox"/> Tuberculosis, all forms
<input type="checkbox"/> Pneumonias	<input type="checkbox"/> Diseases of the vascular system
<input type="checkbox"/> Tuberculosis, all forms	

(No. 6 continued)

MORBIDITY

- Malaria
- Measles
- Dysentery, all forms
- Malignant neoplasms
- Whooping cough
- Others, specify

MORTALITY

- Malignant neoplasms
- Diarrheas
- Measles
- Avitaminoses & other nutritional deficiency
- Accidents
- Nephritis, nephrotic syndrome & nephrosis

Number corresponding box from 1 to 10.

7. Are there adequate minimum provisions in the agency to conduct the techniques to be learned from the workshop? Yes No
8. Will the prospective trainee be able to apply the knowledge and skills to be gained from the workshop? Yes No
9. Does the agency have a manpower development and training program? Yes No
10. List the major research activities undertaken by the agency.

11. List of training activities in the agency

12. Most common problems encountered re: laboratory diagnostic procedures

13. How is the agency funded?
 Government Local grants-in-aid
 Private Others, specify
 Foreign grants-in-aid
14. How many personnel in the staff are directly involved in diagnostic laboratory services?
15. How many physicians?
nurses? laboratory aides?
midwives? voluntary health
medical tech- workers?
nologists? others, specify
16. Are there existing linkages with affiliate institutions? (Please identify these institutions) Yes No

B. Scope of training module versus developmental need of sending agency. Encircle the number that best represents your institutional need.

1. Basic techniques in the isolation and identification of pathogens.
Low priority | 1 2 3 4 5 | High priority
2. Study of biological characteristics such as toxin production, betalactamase production, and antibiotic susceptibility.
Low priority | 1 2 3 4 5 | High priority
3. Application of immunodiagnostic techniques including serotyping, electron microscopy, and animal experimentation.
Low priority | 1 2 3 4 5 | High priority
4. Rapid diagnostic procedures of antibody and/or antigen detection.
Low priority | 1 2 3 4 5 | High priority
5. In vitro cultivation of viral pathogens and parasites.
Low priority | 1 2 3 4 5 | High priority

6. Standardization and quality control of basic microbiological techniques.

Low priority | 1 2 3 4 5 | High priority

7. Proper use and care of scientific equipment and instruments.

Low priority | 1 2 3 4 5 | High priority

8. Work-related hazards and safety procedures in the laboratory.

Low priority | 1 2 3 4 5 | High priority

9. List specific techniques or procedures you wish to be included in the module (and for what purpose i.e. confirmatory or diagnostic, epidemiologic survey, experimental, etc.)

C. Additional comments

D. Respondent

Name:

Signature:

Official designation:

Agency represented:

Business address:

Please return forms to:

TCTP (ARI/DD) Secretariat
Research Institute for Tropical Medicine
Ministry of Health
Alabang, Muntinlupa, Metro Manila
Philippines
Telex No. RITM 4213

ANNEX IV
TENTATIVE BUDGET PROPOSAL

	1987	1988	1989	1990	1991	TOTAL
	RITM	RITM	JICA	RITM	JICA	RITM
	JICA	JICA	RITM	JICA	RITM	JICA
I. PERSONAL SERVICES						
Salaries & Allow.	111,500	128,225	147,459	169,578	195,015	751,777
II. MOOE						
1.) Travelling	15,000	17,250	331,200	22,814	438,012	2,033,729
2.) Communication	3,000	3,450	17,250	4,564	22,814	121,370
3.) Spe. Purpose & Contingencies	55,730		64,090		84,758	375,753
4.) Supp. & Mat.						
a) Office Supp.	100,000		115,000		152,088	674,239
b) Lab. Supplies	1,325,025		490,395		563,954	5,431,972
c) Board & Lodging	71,400	82,110	342,516	103,870	452,915	2,475,114
5) Electricity	12,500	14,375		19,011		84,280
Water	3,000	3,450		4,564		20,231
III. EQUIPMENT						
	1,000,000		1,150,000		1,520,875	6,742,381
GRAND TOTAL	216,400	248,860	2,510,451	324,401	3,235,416	18,711,846

S U M M A R Y

Total for 1987	(RITM & JICA)	3,297,995
Total for 1988	-do-	2,759,311
Total for 1989	-do-	4,021,405
Total for 1990	-do-	3,559,817
Total for 1991	-do-	5,073,318
		<u>18,711,846</u>

* NOTE: Budget for 1988 to 1991 includes 15% increment from that of 1987 budget.

I.	<u>BREAKDOWN OF MAINTENANCE AND OTHER OPERATING EXPENSES (MOOE)</u>	1987	
		RITM	JICA
1.	Travelling Expenses		
	6 persons x P2,500	P 15,000	
	12 persons x \$1,200 x P20		P 288,000
2.	Communication Services		
	Telephone/Telegrams	3,000	15,000
	Messengerial Stamps In and Out of the country		
3.	Special Purpose/Contingencies		55,730
	Printing & Bonding		
	Publication/Subscription		
	Data Management		
	Miscellaneous		
4.	Supplies & Materials		
	a) Office Supplies		100,000
	papers, pens, ink, id transparencies, toner, folders, dispersants, etc..		
	b) Laboratory Supplies		1,325,025
	reagents, slides, cover, bottle, disc, rubber, stopper, pippette canisters, etc..		
	c) Board and Lodging		
	(Local) Lodging P150 x 6x 34 days = P30,600		
	Board 100 x 6x 34 days = 20,400		
	Allow. 100 x 6x 34 days = 20,400	71,400	
	(Foreign) Lodging 500 x 12x 34 days = 204,000		
	Board 100 x 12x 34 days = 40,800		
	Allow. 130 x 12x 34 days = 53,040		297,840
5.	Electricity	12,500	
	Water	3,000	
II.	<u>EQUIPMENT</u>		
	Training and Laboratory Equipments		P 1,000,000

ANNEX IV - B

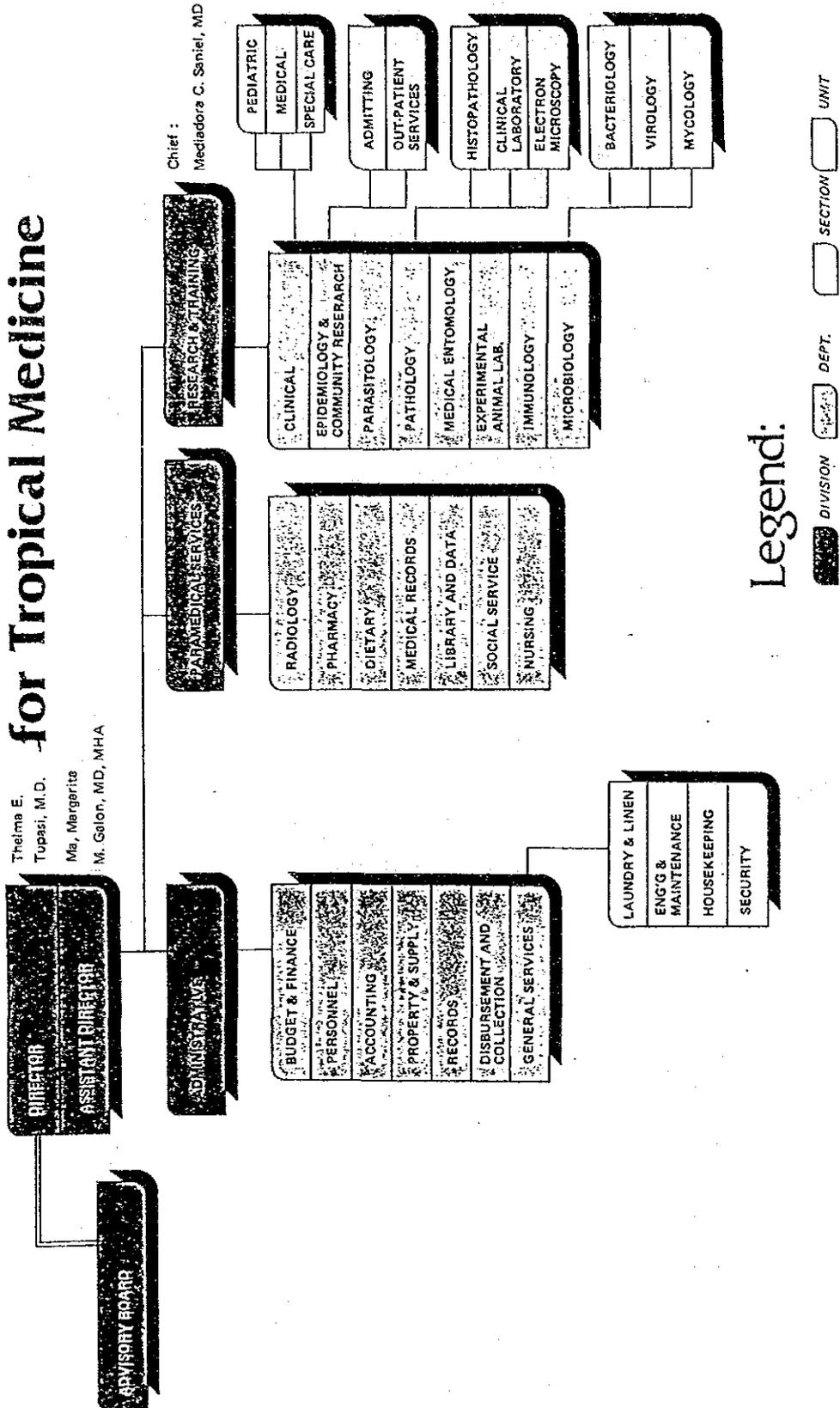
PROPOSED BUDGET FOR THE MODULES

A. ARI		
I.	ARI Bacteriology	₱797,285.00
	ARI Virology	437,740.00
	Transportation	3,000.00
	Office Supplies	19,270.16
	Contingencies	5,729.84
		<u>₱1,263,024.90</u>
B.	Diarrheal Diseases	₱490,395.00
	Office Supplies	19,270.16
	Transportation	3,000.00
	Contingencies	5,729.84
		<u>₱ 518,395.00</u>
	GRAND TOTAL	₱1,781,419.90
		vvvvvvvvvvvvvv

K I T M組織図及び所員構成

1) 組織

Organizational Chart Research Institute for Tropical Medicine



2) 社員構成

研究職資格基準

職 位	学 歴	経 験
主任科学研究官 (C.SRS) R-80	a) M.D(特別研究員終了) b) PhD相当の業績 c) M.AもしくはM.S相当の業績 (大学院にて30単位取得) d) M.AもしくはM.S相当の業績	a) 上級科学研究官(4等級)として各種研究活動を立案企画し、指揮監督し、調整する等、8年の経験を有すること。 b) PhD所有者については、上記経験5年以上を有すること。 c) M.AもしくはM.S所有者で、大学院で30単位取得者は上記経験8年以上を有すること。 d) M.AもしくはM.S所有者については上記経験12年以上を有すること。
上級科学研究官 (SSRS) R-76	a) PhD相当の業績 b) M.D c) M.AもしくはM.S相当の業績 (大学院にて24単位取得) d) M.AもしくはM.S相当の業績	a) 研究班長もしくは科学研究官4等級として、各種研究活動を立案企画し、指揮監督し、調整する等2年の経験を有すること。 b) M.D資格保有者についても上記と同等の経験を有すること。 c) M.AもしくはM.S保有者で、大学院で24単位以上取得したものは、上記経験4年以上を有すること。 d) M.AもしくはM.S保有者は、上記経験8年以上を有すること。
科学研究官 (4等級) (SR SIV) R-73	a) M.D(感染症/熱帯医学に関する特別研究員終了)。 b) M.D(研修医終了)。 c) M.D(研修医終了後、1年間専門分野の研修奨学金もしくは研修証書を受けたこと)。 d) M.D(研修医終了後、2年の研修奨学金を受けたこと)。 e) PhD相当の業績 f) M.AもしくはM.S相当の業績 (大学院で24単位取得)	a) …… b) 当該分野での経験2年以上を有すること。 c) 当該分野の経験1年以上を有すること。 d) …… e) …… f) 科学研究官2等級もしくは3等級として研究の企画立案と実施に

職 位	学 歴	経 験
	g) M.A もしくは M.S 相当の業績 (大学院で 12 単位取得) h) M.A もしくは M.S 相当の業績 i) A.B もしくは B.Sc 相当の業績 (大学院で 12 単位取得)	2 年以上の経験を有すること。 g) 上記 f) の経験を 3 年以上有すること。 h) 上記 f) の経験を 5 年以上有すること。 i) 上記 f) の経験を 7 年以上有すること。
科学 研究 官 (3 等 級) (S R S Ⅲ) R-69	a) M.D 相当の業績 (研修医終了) b) D.V.M (獣医師) c) M.A もしくは M.S 相当の業績 (大学院で 12 単位取得、もしくは 相当の業績) d) A.B もしくは B.Sc 相当の業績 (大学院で 18 単位取得もしくは 6 カ月相当の研修奨学金を受けた こと。) e) A.B もしくは B.Sc 相当の業績 (大学院で 6 単位取得もしくは、 100 時間の研修奨学金を受けたこ と。)	a) …… b) …… c) 科学研究官 (2 等級) として研 究の立案企画し、研究を実施する など、3 年以上の経験を有するこ と。 d) 上記経験を 5 年以上有する。 e) 上記経験を 8 年以上有すること。
科学 研究 官 (2 等 級) (S R S Ⅱ) R-65	a) M.A もしくは M.S 相当の業績 b) A.B もしくは B.Sc 相当の業績 (大学院で 18 単位取得もしくは 6 カ月の専門研修奨学金を受けた こと。) c) A.B もしくは B.Sc 相当の業績	a) …… b) 科学研究官 (1 等級) として 2 年以上の経験を有すること。 c) 上記経験を 5 年以上有すること。
科学 研究 官 (1 等 級) (S R S Ⅰ) R-62	a) A.B もしくは B.Sc 相当の業績 (大学院で 18 単位取得もしくは 6 カ月の専門研修奨学金を受けた こと。) b) A.B もしくは B.Sc 相当の業績 (大学院で 6 単位取得もしくは、 100 時間相当の研修コース参加) c) A.B もしくは B.Sc 相当の業績	a) …… b) 研究助手として経験 2 年以上 c) 中級レベルの研究助手としての 経験 3 年以上

職 位	学 歴	経 験
科学研究助手 (2 等 級) (S R A II) R-58	A.BもしくはB.Sc相当	研究助手もしくは相当の分野の経験 1年以上。
科学研究助手 (1 等 級) (S R A I) R-54	a) G.N、A.BもしくはB.Sc 相当 b) 短大2年終了	a) …… b) 当該分野での経験4年以上
衛生検査補助 (Aide) R-39	中学校卒業	

要員の配置

	M.D	Chief SRS	Senior SRS	SRS IV	SRS III	SRS II	SRS I	SRA II	SRA I	Aide
I 所 長 室	2	2(2)								
II 研 究 訓 練 部	12	3(3)	8(5)	10(4)	5/8	0	6	37	55	35
部 付	1	1(1)						1		1
a. 微 生 物 学 科	1	1(1)		2	5			9	2	2
b. 疫 学 科	1	1(1)		1	1		2	2	9	
c. 免 疫 学 科	0		2	2			2	4	1	3
d. 衛 生 昆 虫 学 科	1		1(1)						4	3
e. 病 理 学 科	3		1(1)	2(2)			2	13	6	2
f. 生 化 学 科			1		1			2		
g. 実 験 動 物 舎 科					1					2
h. 臨 床 医 学 科	4		3(3)	1(1)	Med Specialist 5					
i. 地 域 医 学 科	1			2(1)				6	33	22
j. 寄 生 虫 学 科										
III 医 療 技 術 部	1	1(1)	1	4			8	35	6	40
部 付	1	1(1)								1
a. 看 護 科				Chief N. 1			3	29		22
b. 薬 局				1			1	1	3	1
c. 栄 養 科				1			1		1	8
d. 医 療 記 録 科							1			7
e. 社 会 俸 仕 科								1		
f. 図 書 資 料 室							Sr. Lib. 1			1
g. 放 射 線 科			1					3		
IV そ の 他				1			1	1	2	
a. A R I 事 務 局				1					1	
b. R I T M 事 務 局							1	1	1	

国内・外研修プログラム

1. RITM職員の研修状況

Personnel Trained Abroad (by external foundation)

1.	Dr. Norman Gonzaga Head, Dept. of Pathology	1981	Electron Microscopy Kyushu University
		1984	Electron Microscopy Japan
2.	Dr. Mediadora C. Saniel Chief, Research & Training Division	1981	Clinical Training Course on Diarrheal Diseases ICDDR, Dacca, Bangladesh
3.	Dr. Thelma E. Tupasi Director	1981	Biomedical Research Design and Methodology Kuala Lumpur, Malaysia
4.	Dr. Ma. Margarita M. Galon Assistant Director	1982	Research Management Kyushu University Japan
5.	Dr. Marietta C. Baccay Head, Paramedical Division	1982	Pathology, Electron Microscopy & Animal Research Kyushu University and Ryukyu University, J A P A N
6.	Ms. Fe Leano SRS III, Bacteriology	1982	Laboratory Training Course on Diarrheal Diseases ICDDR, Dacca, Bangladesh
7.	Dr. Marilla Lucero Head, Section of Medicine	1982	Epidemiology Training Course in Diarrheal Diseases ICDDR, Dacca, Bangladesh
8.	Ms. Bella Almario SRS III	1982	Training Course in Biostat- istics and Epidemiology Kuala Lumpur, Malaysia
9.	Dr. Ofelia Calubiran Head, OPD & Emergency Section	1982	Workshop on Immuno-pathology of Parasitic Diseases Lusanne, Switzerland
10.	Ms. Cleotilde Torres SRS IV	1982	Training in Virology Japan
11.	Ms. Lydia T. Sombrero SRS III	1984	Training on Microbiology Japan
12.	Ms. Lillian De Leon SRS III	1984	Training on Microbiology Missouri, Georgia & California

13.	Ms. Minerva Tarrayo Head, Pharmacy Department	1984	Training on Pharmacology Japan
14.	Ms. Cleotilde Torres SRS IV	1984	Training on Virus Antigen Detection University of Turku Finland
15.	Elizabeth TRajano SRA II	1985	Training Course in Micro- biology Japan
16.	Marilla G. Lucero, M.D. Head, Section of Medicine	1985	Master in Clinical Epide- miology Programme Australia
17.	Susan T. Tan SRS IV	1985	Diploma course in Computer Science Australia
18.	Oscar Dajao Senior Biomedical Engineer	1985	Maintenance of Electron Microscopy Laboratory Japan
19.	Joven Cris BAcalla Biomedical Engineer	1985	Medical and Laboratory Equipment, Maintenance and Repair Japan
20.	Roberta C. Romero, M.D. Sr. Sci. Res. Spec.	1985	WHO Advanced Course in Immuno-pathology of Infec- tious Diseases Geneva, Switzerland
21.	Agustina M. Diaz SRA II	1985	13th Advanced Nursing Study Course for Southeast Asian Nurses, J A P A N
22.	Fem Julia Paladin SRA II	1985	WHO Workshop on Rapid Diag- nosis of Dengue Virus Infec- tions Kuala Lumpur, Malaysia
23.	Dr. Ma. Margarita M. Galon Assistant Director	1985	Training on Health Economics for Developing Countries University of York United Kingdom
24.	Dr. Normando C. Gonzaga Head, Pathology Department	1985	Workshop on Electron Micros- copy and Immune Electron Microscopy Hongkong
25.	Cynthia C. Miguel SRS III	1985	Data Management Bangkok

26.	Nellie Mangubat SSRS	1985	Data Management Bangkok
27.	Marinella B. Petersen SRA II	1985	Special Techniques in Electron Microscopy Singapore
28.	Alberto T. Oyco SRA II	1985	Counterpart Training on Field Techniques in Medical Entomology/ Application of Electron Microscopy Japan
29.	Faustino C. Icatlo, Jr. Head, Animal Laboratory	1985	Laboratory Animal Technology Japan
30.	Rebecca Marquez SRA II	1985	Training on Immuno-chemistry J A P A N
31.	Esther Romano Head, Nursing Department	1985	Intensive Pediatric Care Nursing & Infection Control Practice in Hospital J A P A N
32.	Salvacion C. Queipo, M.D SSRS	1985	Diplomate of Tropical Medicine and Hygiene University of Liverpool School of Tropical Medicine United Kingdom

2. Training Experience of the RITM for the past 5 years

The Research Institute for Tropical Medicine since its establishment in 1981 has served as a training facility in developing research and clinical manpower in infectious disease through its various training programme. (See Table I)

Five of the 9 on-going programme are for the training of medical doctors leading to specialization in infectious disease (fellowship training) or in clinical training on infectious disease (residency and clinical training). The rural health practicing physician programme provides experience in community medicine for medical graduates following their internship in the clinic. The workshop on biomedical research methodology is directed towards medical doctors in the regional offices of the Ministry. Annually, 64 medical doctors are trained through the various 5 programmes.

The remaining 4 programmes are for both paramedical and medical personnel. Yearly, around 16 staff members of RITM participate in the research management workshop and 25 paramedical workers in the electron microscopy workshop, medical technology internship and parasitology training.

5.1. The scope of the various workshop and programmes at the Research Institute for Tropical Medicine are described in Annex I.

5.2. Assistance received from other country or organization in the past five years:

1. Assistance for training activities:

World Health Organization - \$35,000.00

TABLE 1

TRAINING PROGRAMMES/WORKSHOP AT THE
RESEARCH INSTITUTE FOR TROPICAL MEDICINE

I. On Going Programmes

<u>TITLE</u>	<u>LEVEL OF PARTICIPANTS</u>	<u>DURATION FREQUENCY</u>	<u>NUMBER OF PARTICIPANTS</u>	<u>SCOPE</u>
1. Fellowship Training in Infectious Diseases	National	2 years(annual)	5	Infectious Disease: Research & Clinical
2. Clinical Training in Infectious Disease	National	1 year(annual)	2	Clinical Infectious Disease
3. Rotating Residency	Institutional	2 months(6 times a yr.)	36	Clinical Infectious Disease
4. Rural Health Practicing Physician	National	6 months(twice yearly)	5	Community Health Program
5. Biomedical Research Methodology	National	2 weeks (annual)	16	Epidemiology & Research Design
6. Research Management	Institutional	3 weeks (annual)	16	Management of Research
7. Electron Microscopy Program	National	6 months (annual)	5	Application of Electron Microscopy to Biomedical Science
8. Medical Technology Internship	Institutional	12 months (annual)	10	Laboratory Technology
9. Medical Parasitology and Entomology	National	3 weeks	10	Vector-borne Diseases

ANNEX I

Scope of the Training Programmes at the Research Institute for Tropical Medicine (今後の計画)

1. Third Country Programme

The programme will include training on the basic technics in the isolation or cultivation of etiologic agents including bacterial, viral, and parasitic agents in acute respiratory and diarrheal diseases.

2. Epidemic Investigation Service Training

The programme will include didactic training in epidemiology and its application in fields investigation of endemics and surveillance of disease in the community.

3. Fellowship in Infectious Diseases

The post-residency programme will train the physician in the systematic approach to the diagnosis and treatment of infection and tropical diseases and to provide him the basic research techniques necessary to undertake research studies.

4. Clinical Training in Infectious Disease

The programme will train physicians in tertiary medical centers (Regional hospitals and its equivalent in the systematic approach in the diagnosis and treatment of infectious disease as a means of ungrading services in the regional and provincial levels).

5. Rotating Residency

The programme will train the medical and pediatric residents in the systematic approach in the diagnosis and management of infectious and tropical diseases commonly seen among medical patients.

6. Rural Health Practicing Physician Programme

This post-internship programme will train the physician on community programs in primary health care.

7. Biomedical Research Methodology

The programme will include didactic training in epidemiology and its application in biomedical research.

8. Research Management

The programme will enhance the participants' awareness of the current trends of management and will enhance their supervisory capabilities, outlook and approach of middle level supervision.

9. Electron Microscopy Programme

The programme will include an introduction on the basic technics in the application of electron microscopy in ultrastructural research and in the identification of viral agents.

10. Medical Technology Training Programme

The programme will provide a holistic hospital and community clinical laboratory training for qualified medical technology interns.

11. Medical Parasitology and Entomology Training Programme

The programme will include training of medical technologists in laboratory and field technics in the study of parasites and vector-borne diseases.



Republic of the Philippines
MINISTRY OF SOCIAL SERVICES AND DEVELOPMENT
Social Welfare and Development Center: A
Comprehensive Approach to People's
Participation (SMDCAPP)
Tagig, Metro Manila

SCHEDULE OF RATES FOR SMDCAPP FACILITIES/SERVICE

I. Standard Rates for AIR-CONDITIONED Rooms

Single Occupancy.....P135.00 per day
Double Occupancy.....P180.00 per day
Extra bed*.....P 45.00 per day

Standard rates will be imposed upon non-group or short staying guests.

II. Standard and Convention Rates for NON-AIR-CONDITIONED Rooms

Single Occupancy.....P 70.00 per day
Double Occupancy.....P100.00 per day
Extra bed*.....P 45.00 per day

* The cost of extra bed is not discounted regardless of the number of persons booked or length of stay at the center.

別紙

III. Convention Rate

- A. Group of at least 20 persons and stay in residence of at least 3 days

Single Occupancy...../125.00 per day
Double Occupancy...../165.00 per day

- B. Group booking of at least 20 persons and stay in residence of at least 7 days

Single Occupancy...../115.00 per day
Double Occupancy...../140.00 per day

IV. Training Facilities

Plenary Hall...../500.00 per day

Seating capacity:

110 persons with tables
250 persons w/o tables

Conference Rooms...../250.00 per day

Seating Capacity:

32 persons

Small Meeting Rooms...../125.00 per day

Seating Capacity:

12 persons

Secretariat Room...../125.00 per day

The use of training facilities is limited to 10 hours daily.

10% additional charge per hour shall be made in excess of 10 hours.

7. Meals

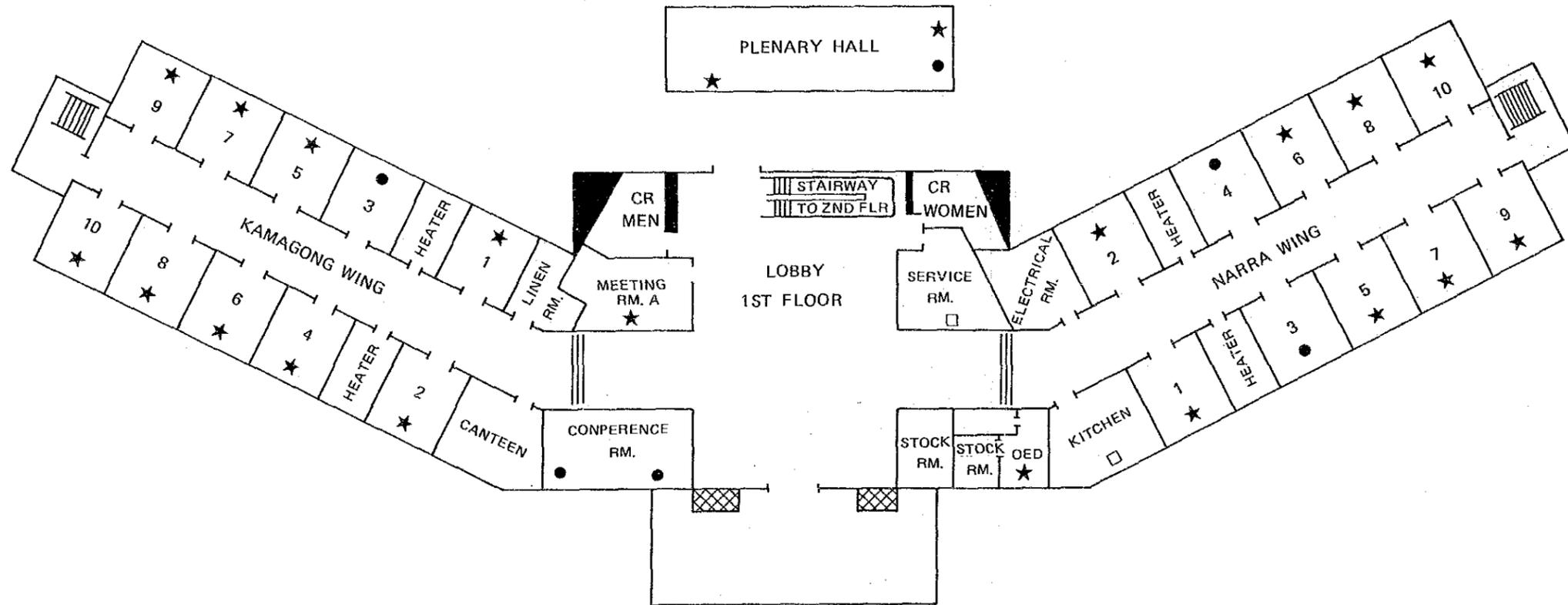
Breakfast.....	9.00
Lunch/Dinner.....	30.00
Snacks.....	11.00
	<u>50.00</u>

Payments in foreign currency shall be accepted based on Central Bank's policy and current prevailing peso rate of type of foreign currency being used at the time of payment.

REFERENCES:

- 1) NSWD Administrative Order No. 4 Series of 1983.
- 2) Approved memorandum of the Minister dated February 7, 1983.

SWDCCAPP BUILDING 1ST FLOOR
 SOUTH SUPERHIGHWAY MAKATI, METRO
 MANILA



LEGEND :

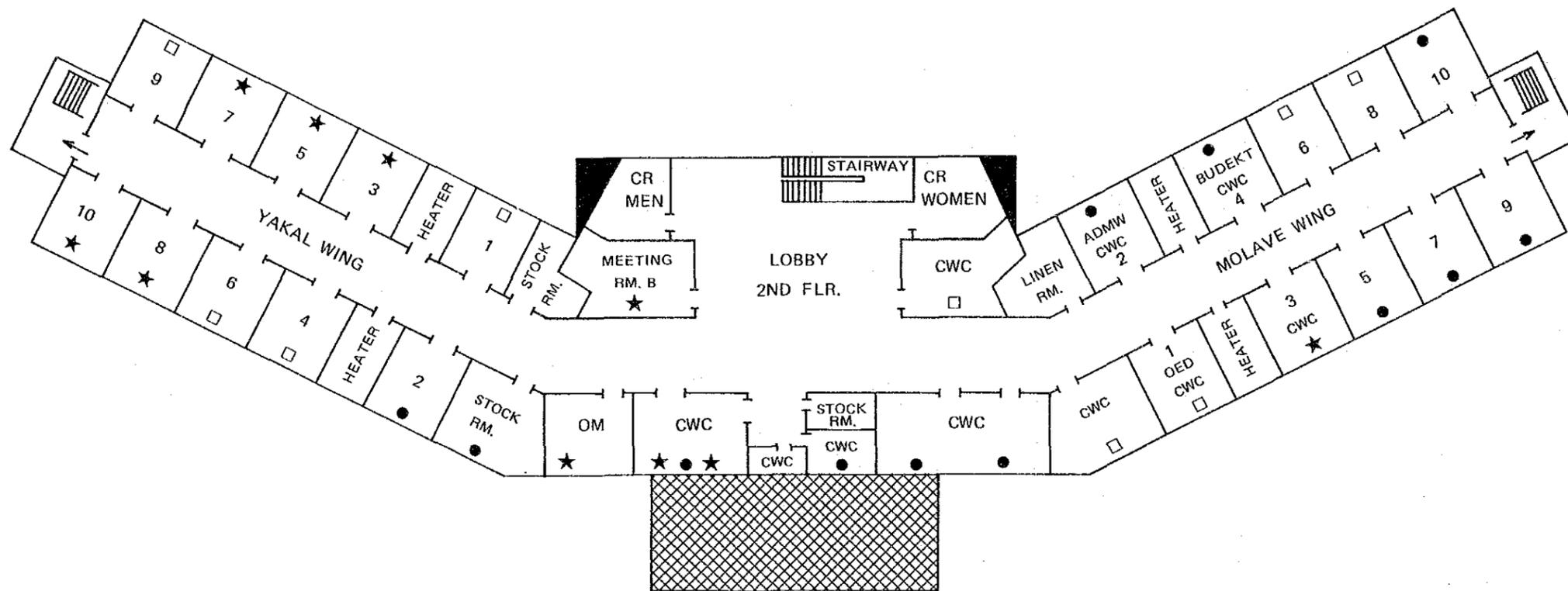
- ★ - IN GOOD CONDITION AIRCON
- - OUT OF ORDER AIRCON
- - NON AIRCON

X- SIX OUT OF ORDER AIRCONS ARE IN THE HEATER OF NAPRA WING.
 55- TOTAL NUMBER OF AIRCON (1ST & SECOND FLR.)

NOTE: ALL AIRCONS OF NARRA WING ARE SUBJECT TO BE TRANSERED

SUBMITTED BY : LITO BONGAPONG
 8-29-84

SWDCCAPP BUILDING 2ND FLOOR
 SOUTH SUPERHIGHWAY MAKATI METRO
 MANILA



LEGEND :

- ★ - IN GOOD CONDITION AIRCON
- - OUT OF ORDER AIRCON
- - NON AIRCON

NOTE : ALL AIRCONS OF MOLAVE WING
 ARE SUBJECT TO BE TRANSFERED

SUBMITTED BY :
 LLTD BONGAPONG
 8-29-84



JICA